岩手県立高田高等学校 海洋システム科通信 4月号

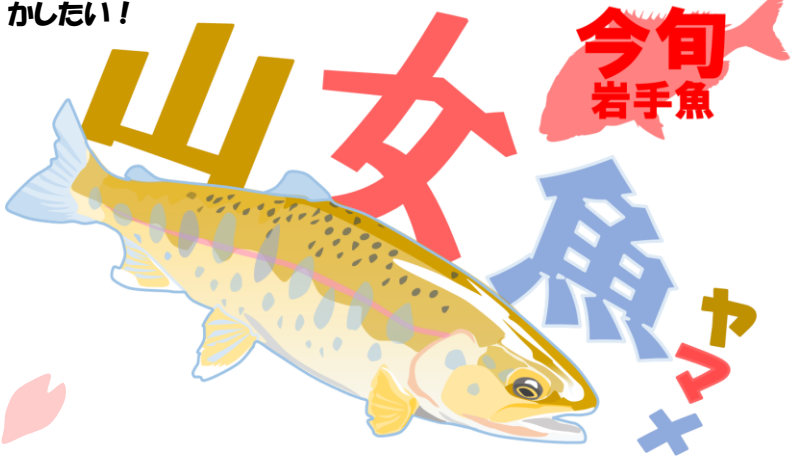
【所在地】〒029-2205
岩手県陸前高田市高田町
字長砂78番地12
【電　話】0192-55-3153
【FAX】0192-55-6758

"学び"と"町の活性化"
（岩手大学・陸前高田市連携型海洋環境調査）

今年は、海洋科学コースの2年生が、岩手大学、陸前高田市の水産課と協力し、広田湾の海を調査していく！海の"今"を知り、自分たちの学びと町の活性化に活かしたい！

科学的なものの見方・考え方
（高校生ちきゅうワークショップ）

海洋科学コースの3年生が、オンラインで会議ができるZoomを活用し、高校生ちきゅうワークショップに参加した！自分たちが行ってきた海洋環境調査の成果を発表し、全国の高校生や自然科学の専門家と意見を交わしながら、科学的なものの見方・考え方を学んだ！



新たな成長の始まり
（海洋システム科 新1年生入学）

今年度、海洋システム科には15名の生徒が入学してくれた！水産業や海を学ぶ高校生としての成長が、今、始まったぞ！！

先生の独り言 vol.1 「"誇り"と"仲間"のために」

これは、インドネシアの海洋水産大臣であるスシ・プジアストゥティさんが、爆破された外国密漁船を前に、コーヒーをすすっている写真である。実はこの写真、合成写真であるが、スシ大臣は本当に密漁船を爆破している。なぜ彼女は密漁船を爆破したのか？

インドネシアは世界有数の水産大国である。魚介類の密猟被害が多い国としても知られており、年間の被害額は2兆2000億円にもなる。スシ大臣はこの密漁問題を解決するために、外国船の爆破を指揮している立場だ。「船を爆破するなんて乱暴だ」と思うかもしれない。しかも、彼女はイスラム教徒でありながら、タバコを吸い、足には不死鳥の入れ墨がある。過激な政策と政治家らしくない振る舞いから、国内でも乱暴な人物だと考えている人は少なくない。しかし、スシ大臣は決して乱暴ではない。

スシ大臣はもともと起業家である。高校を中退し、単身で水産の世界に飛び込み、水産物を販売・加工する会社で成功した。さらに、自分の"誇り"である水産物を世界に向けて売り出すために設立した航空会社でも大成功を収めた。その手腕を現職の大統領に見込まれて、海洋水産大臣に就任したのである。ちなみに、私のインドネシア人の友達から聞いた話では、スシ大臣の入れ墨は、彼女が最初に踏み込んだ水産の世界で"仲間"を意味するものらしい。

日本人にとって、謙虚さや相手への思いやりは美徳である。その考えから言えば、スシ大臣による密漁船の爆破は乱暴で見苦しく感じる人がいるかもしれない。しかし、自分にとって大切な"誇り"や"仲間"のために、怒りをあらわにして決して許さない姿勢を示したスシ大臣を、私はかっこよく感じてしまうのだ。